

建築計画、構造計画及び設備計画について、次の(1)～(7)の要点等を具体的に記述する。

なお、要求図面では表せない部分についても記述する。

(1) 採用したパッシブデザインについて特に考慮したこと（3つ以上の手法）

吹抜状の屋外施設にしたリラクゼーションスペース、エントランスホール、2階の廊下の上部を吹抜空間として繋いだ。トップライトにより、窓から離れたインテリアゾーンへの自然採光、風力と圧力を利用した換気を可能とした。
日射遮蔽について、外断熱とし、吹抜け上部の開閉式のトップライトはLow-Eガラスを採用した。低放射膜をガラス面にコーティングすることにより、断熱性・日射遮蔽性、また冬期は日照の透過性を向上させた。

(2) 客室B(車椅子使用者用客室)の室内計画において、バリアフリーに配慮した設計の考え方や設計のポイント(仕様、各種寸法等)について特に考慮したこと（3つ以上の手法）

・建築物の移動円滑化誘導基準を満たす計画とした。
・出入口、浴室、便所、洗面所、寝室で車椅子が回転できる十分なスペースを確保するため直径1,500mmの円を内接させ、扉は引戸とした。
・ベッドの高さは40～45cm程度とし、収納の高さは170cmとした。また、ハンガーのフックを高さ120cmとした。

(3) コンセプトルームについて、設計条件や特記事項を踏まえ、既存の観光資源等を任意に想定し、「使用目的とその効果」及び「設い(内装、什器、設備機器等)」について提案すること

地方で重要文化財に指定されている山車を想定した。毎年行われる祭り等で使用され、観光資源となっている。使用されている内装、什器、照明等を高い吹抜空間に設けることで、その効果を高めた。
--

(4) 建築物全体の「構造種別・架構形式」、「スパン割り」及び「主要な部材の断面寸法」について特に考慮したこと

構造種別・架構形式について特に考慮したこと	構造種別は、耐火性や遮音性の高い建築物とするため、鉄筋コンクリート造とし、キャノピーについては、経済性に配慮して鉄骨造とした。架構形式は、建築計画の自由度が高く靱性に優れた建築物とするため、ラーメン構造とした。
スパン割りについて特に考慮したこと	柱1本当たりの荷重負担が過大にならないように、また、経済性に配慮した構造計画とするために7m×8mの均等スパンとした。
主要な部材の断面寸法について特に考慮したこと	柱800×800mm、大梁500×800mm、小梁300×600、スラブ200とし、十分な剛性と安全を確保した。

(5) 地盤条件(軟弱な地盤及び良好な地盤)及び敷地の形状(斜面地及び平坦部)を踏まえて計画した基礎構造について、「採用した基礎構造の形式」、「基礎底面のレベル」、「基礎梁の寸法」等について特に考慮したこと

採用した基礎構造の形式について特に考慮したこと	基礎は部分地下によって生じる偏土圧に対して、水平抵抗力が高く、建物全体に生じる曲げ応力を分散することができる、べた基礎を採用した。
基礎底面のレベルについて特に考慮したこと	基礎は安定角度の下側に入るよう十分な根入れ深さを確保し、N値45程度をもつ砂礫層にべた基礎の底面を設けた。
基礎梁の寸法について特に考慮したこと	地階については、土被りのない面もあるため、地上3階の建築物として地震力を算出し、基礎形式は偏土圧を受けることも考慮して、べた基礎とし、基礎の寸法は、W:600mm、h:3,000mmとし、地盤表面より3mの深さのN値45の層に設けた。

(6) 斜面地における地下1階の構造躯体の計画に当たり、土圧・水圧対策等について特に考慮したこと

傾斜地に建築することから、偏土圧に対しても安定した構造とするため、建物形状が整形な形状となるように計画した。水圧に対しては、特に水圧が高い部分は水抜きを設け、内部を2重壁とし、ピットを通じて排水する計画とした。

(7) 各階の居室に外気を送風するためのダクトルートの計画において、空調機械室及びダクトスペースの配置について特に考慮したこと

1階の北東部に空調機械室を設け、ダクトスペースはE.V.スペースに接する部分に設けた。各階の天井裏にダクトを横ダクトにより居室に外気を送風し、リターンダクトにより空調機械室まで運ぶ計画とした。
--